

ダイバーシティ —新たな可能性を、学生とともに—

ダイバーシティとは「多様性」を意味します。変化の激しい時代に、組織や地域が力強く進んでいくためには、多様性から生まれる活力が必要です。

ダイバーシティを推進するために大切なこと

「互いの違いを認め、尊重する」というダイバーシティの精神が組織や地域で息づき、定着するには、多様であるのは「特別な誰か」ではなく、自分自身もまた、多様な存在の1人だと気づくことが重要です。

山口大学が目指すのは、多様性が共存する組織＝自分との違いを尊重し、理解しようと努力し、連携し合う組織です。その実現のために、学生協働を重視して、世代を越えた若いエネルギーも巻き込みながら、これからも「ダイバーシティ・キャンパス」の実現に取り組んでいきます。

ダイバーシティ推進室での取り組み

山口大学では、性別や年齢、障害、民族、性的指向や性自認などの多様性を尊重することで、学生や教職員の個性と能力が最大限発揮される「ダイバーシティ・キャンパス」の実現を目指しています。

「ダイバーシティ・キャンパス」の実現のために、ダイバーシティ推進室では3つの柱をもとに、取組を展開しています。

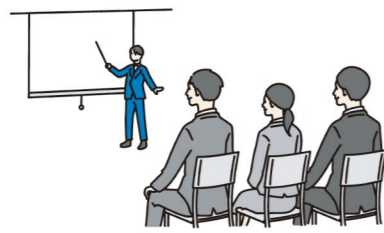
① ダイバーシティ意識の醸成

ダイバーシティを推進することはメリットばかりのように感じますが、多様性が高まると、意見の対立や、説明を求める声が上がることもあります。

そのため、ダイバーシティの重要性を理解してもらうために、セミナーの開催や、メルマガやニュースレターを発行しています。さらに、ダイバーシティ推進担当の鍋山副学長との意見交換を行うことのできる「ダイバーシティあれこれカフェタイム」を毎月開催しており、様々な背景の人が訪れ、ダイバーシティ推進に関する意見を交換しています。



ニュースレターの発行



シンポジウム・セミナーの実施



あれこれカフェタイムの開催



メルマガ配信

② ワーク・ライフ・バランスの支援

仕事とライフイベントを両立するために、出産や育児、介護に関する支援制度を整備しています。

大学ならではの制度として、ライフイベントを抱えた研究者に研究補助員を配置することで、研究者を支援すると同時に、学生の研究力向上にもつながっています。



病児保育施設等
利用助成



介護と仕事の
両立支援



学童保育
「ヤマミ学級」・
一時保育の実施



臨床心理士による
カウンセリング



就業時間内の
会議終了の徹底

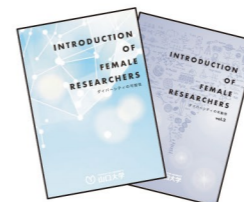
③ 多様性の尊重

学生・教職員の多様性を高める取り組みの1つとして、2019年度に中国四国九州地方の国立大学では初となるSOGIガイドラインを策定しました。SOGIとは、多様な性的指向 (Sexual Orientation) と性自認 (Gender Identity) を指す言葉で、ガイドラインでは基本理念を掲げるとともに、本人が自認する性別、通称名への配慮、相談窓口の設置などを規定しました。

このガイドライン策定は、学生団体「ilma」の結成にもつながりました。「ilma」は、セクシュアルマイノリティの当事者が安心して過ごせるキャンパスづくりを目指して、SOGIやLGBTへの理解促進のための活動を行うなど、ダイバーシティ推進室との協働イベントを精力的に実施しています。



SOGIガイドライン・
SOGI対応事例集の発行



パンフレット



イベント



女性・若手・外国人研究者比率の向上



研究者の裾野拡大



学生団体
ilmaとの協働

ilmaとは

2019年度に結成された山口大学の学生団体で、「すべての人が尊重され、自分らしく生きることのできる社会」を目指して、SOGIやLGBT、ジェンダー問題に関心を持ってもらうための活動をしています。

これまで、「LGBTってなに?」、「お母さんが2人ってダメ?」などをテーマに大学内でイベントを開催しているほか、SNSでセクシュアルマイノリティなどに関する情報発信をしています。また、県内の高校からの依頼を受け、高校生を対象としたディスカッションイベントも実施するなど、幅広く活動しています。

